環境パートナーシップちば

だより

— つながれ　ひろがれ —

創刊号

編　集　環境パートナーシップちば
責任者　鈴　木　優　子
事務局　千葉市中央区中央4-12-12
金剛ビル５Ｆ
㈶千葉県環境財団 環境学習推進室
電　話　043-224-2691

会報の発刊にあたり

代表　鈴木　優子

環境月間の６月、千葉県に初めて、環境グループのネットワークが誕生しました。環境への関心が高まってきている今、これまで個々に活動してきた環境グループに呼びかけ、互いに手を繋ぐ必要があるとの要望も高まり、昨年12月、ネットワークづくりの第一歩として県下の環境グループの名簿作りをしました。今年度は設立準備会を経て総会を開き「環境パートナーシップちば」がスタートしました。産みの苦しみを一緒に味わった仲間達、次々と加わった仲間達に支えられてのスタートでした。前例のない事ですから、今後の運営の厳しさはありますが、多様な仲間が集まる事は、多様化している環境問題解決の可能性も大きくなるのですから、このネットワークが今後の環境活動に広がりと充実をもたらしますように皆様のご協力をお願い申し上げます。

千葉県環境部長　高山　明徳

近年、環境保全のためのネットワークやパートナーシップの重要性が叫ばれており、本県でも、昨年策定した環境基本計画において「みんなで参加する取り組み」を理念の一つとしたところです。

同じ志を持ついろいろな人や市民団体などがネットワークを形成し、情報交換をしたり、協力し合えばそれぞれの力だけでは成しえない大きな効果が期待されます。

この度、新たに発足された「環境パートナーシップちば」は環境ボランティアのネットワークやパートナーシップを築くことを目標に設立されたもので、県としても皆さんの今後の活動に期待しております。

環境を大切に思う皆さんの心が大きく広がることを祈念いたします。

(財)千葉県環境財団　理事長　松鵜　靖

「環境パートナーシップちば」の旗揚げと機関紙の創刊おめでとうございます。

現在、県内には環境に向けて活躍しておられるボランティアグループが数多くありますが、この方々がお互いに情報を交換し合い、協力し合うことができたら、それは素晴らしいことだと考えます。

「ボランティアする人、この指とまれ」の発想が実を結び、多くの方々がこの指に止まって下さることを念願するものです。

優雅なお人柄と、センス溢れる行動力の鈴木会長さんを中心に、スタッフの皆様のご協力で産声を挙げた「環境パートナーシップちば」が、力強く成長されることを心から祈念してお祝いの言葉といたします。

環境パートナーシップちばのロゴマークができました

「環境パートナーシップちば」
規　約

[1] 名称および事務局

このネットワークは、「環境パートナーシップちば」と称し、事務局を(財)千葉県環境財団環境学習推進室
(〒260　千葉市中央区中央四丁目12番12号金剛ビル５Ｆ
TEL 043 (224) 2691　FAX 043 (224) 2522) におく。

[2] 目　的

このネットワークは、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的とする。

[3] 会　員

1) 会　　員　県下に居住し、又は、活動する環境・町づくりなどに関心のある個人、市民団体を問わず自由に参加することができる。
2) 賛助会員　目的に賛同するものを以て賛助会員とする。

[4] 組　織

このネットワークの、円滑な運営のためつぎの組織をおく。
1) 運営委員会　ネットワークの運営方針を決定する。
2) 部　会　　ネットワークの事業の運営部門を担当し、次の部会を置く。
企画部会　ネットワークの事業の企画を担当する。
研修部会　ネットワーク会員の向上のための研修部門を担当する。
広報部会　ネットワークのＰＲ活動と啓発、情報機関誌の発行等を担当する。

[5] 役　員

1) このネットワークに、つぎの役員を置く。
運営委員会
代表　1名　　副代表　3名　　書記　2名　　会計　2名
部　　会
企画部会　部長1名　副部長1名
研修部会　部長1名　副部長1名
広報部会　部長1名　副部長1名
会計監査　　2名
2) すべての役員は、総会の承認によるものとする。
3) 役員の任期は1年とするが、再任を妨げない。
4) 各部会にはスタッフを置くことができる。

[6] 活　動

このネットワークの、活動充実のためつぎの事業を推進する。
1) 情報の収集と提供（センター機能を含む)。
2) 行政、企業および専門家とのパートナーシップ実現のための活動。
3) 各地域でのシンポジウム、フォーラムなどの開催と支援活動。
4) 会員の資質の向上のための研修活動。
5) 機関誌の発行と啓発、ＰＲ活動。
6) 環境活動諸問題の相談窓口を置く。

[7] 会　議

1) 総会は年1回開催し、活動方針、予算、規約改正、その他代表が必要と認める事項等を審議、議決する。
2) 通常活動の運営のため、定例運営委員会を年4回開催する。
3) 委員会、部会は必要に応じて各長が招集する。

[8] 会計および会計年度

当ネットワークの、運営はつぎの経費をもって行なう。
1) 会員年会費　　個人　1,000円　　市民団体　2,000円
2) 賛助会員年会費　1口　5,000円
3) 各種補助金・助成金
4) 寄付金
5) 会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

この規約は、1997年6月29日より発効するものとする。

総会の様子

副代表　深尾　秀次

市民主導型の『環境パートナーシップちば』の設立総会は、産みの苦しみを感じながら立ち上がりました。“小さく産んで大きく育てる”精神で、ゆっくり歩みたいと思います。

総会に当たり準備会スタッフが規約他を皆様におはかり致しましたところ経験豊富なご出席の皆様から建設的でしかも多くのご指導を頂きました。

懇親会では各グループの活動を語り合い大変楽しい一時でした。

設立宣言

21世紀を目前にしたいま、環境問題が地球規模で懸念されている。

私たちが住む千葉県は、開発された都市部と、自然環境が色濃く残る郡部とが混在している。

環境問題に意識を持ち、それぞれの地域で行動してきた私たちは、いまこそ、市民主導型の環境ネットワークを築き、市民・行政・企業とのパートナーシップをめざし、さらに市民としての自覚と責任をもって、未来により良い地球環境を引き継ぐ活動の必要を実感している。

私たちは、環境活動の展開のため、今日ここに「環境パートナーシップちば」の設立を宣言する。

1997年6月29日

主な事業計画

① 会員の資質向上の為の視察及び研修活動
② 各部シンポジウム・フォーラムの開催
③ 機関誌の発行
④ 情報の収集と関係団体への支援
⑤ 環境活動諸問題の相談窓口の開設

予　算

歳入の部

年会費および各種団体補助金	2,100,000
雑収入	15,000
計	2,115,000

歳出の部

機関誌発行費	160,000
事務費	214,000
事業費	1,170,000
役務費	300,000
会議費	106,000
雑　費	65,000
予備費	100,000
計	2,115,000

役　員

代　表	鈴木優子	
副代表	永島輝代	
副代表	深尾秀次	
副代表	川原啓佑	
書　記	横山清美	
書　記	服部　洵	
会　計	立石不器子	
会　計	細矢忠資	
会計監査	疋田洋子	
会計監査	井上一市	
企画部会	部長	大西優子
	副部長	薮内俊光
研修部会	部長	加藤賢三
	副部長	小倉久子
広報部会	部長	横須賀靖
	副部長	小西由希子

― 本年度の各部の活動方針 ―

研修部会　　部長　加藤　賢三

設立して間もないことでもあり、十分検討されているとは言えないが、パートナーシップの具体化を図ることを主眼にしている。具体的には、企画部会と合同で年１～２回のシンポジウムおよびフォーラムを開催すると共に、行政、企業、専門家とのパートナーシップそして会員同士の交流推進の実現のため次のような研修会を催したい。

１．地球環境、２．自然環境、３．大気・水環境、４．ごみ・リサイクル、５．環境学習などの分野からの講師を会員有志あるいは環境アドバイザー、そして専門家等にお願いし、テーマとしては、現在以下のようなものを検討している。

(1) グリーンコンシューマー研修会 (2) 環境アセスの研修会 (3) ダイオキシンの研修会 (4) ＮＧＯとＮＰＯの現状とこれからの展望、(5)各地域で行う学習会、研究会の共催の募集。

現在、環境全般に関する情報収集と、集めた情報の整理や有効活用、ネットワーク化をゆっくりでも着実に図っていく必要性を痛感している。

企画部会　　部長　大西　優子

「環境シンポジウム千葉会議」に実行委員として参加して、この会場の熱意をネットワークとして繋げることが出来ないだろうか、と思っていましたが、それが「環境パートナーシップちば」として実現しました。力不足ですが、精一杯努力したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

この会の目的でもある市民・行政・企業や専門家とのパートナーシップを、どのように作り上げるか多くの課題がありますが、一つづつ実績を積み上げて経験を形にするしかないと考えています。その一つの試みが、活動方針にある市民、行政、企業や専門家との「懇談会」です。各主体の相違、対立点の是非を問うのが目的ではなく、解決の方向を少しでも見出すことを目指し、討論を進めてゆきたいと思います。

企画部では前記の「懇談会」を始め、

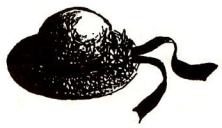
・環境グループのマップ作り
・「環境シンポジウム」「エコメッセちば」への協力
・会員を増やすことに取り組みます。

このネットワーク事業の発展のため、積極的なご提案を含め、皆さまのご参加、ご協力をお願い致します。

広報部会　　部長　横須賀　靖

平素より環境問題に関心と御理解のある皆様と共に、会員相互の接着剤となる様に、又日常活動の中で出来る限り情報収集に努め、皆様の目となり耳となる様に、どんな些細な情報でも一つ一つ積み上げていくことが重要であると考えています。

又、今回発足した『環境パートナーシップちば』に多数の方々が参加していると云う意識と、いろいろな場面で活動している行為を積み上げて行くことも、重要であると考えます。これ等を何とかご指導、ご協力を頂きながら『会報』として全力投球でまとめ上げて行きますので、不十分な所、詰めの甘い所等、沢山有ると思いますが一人でも多くの方々に読んで頂き、ご意見やご感想をお寄せ頂ければ幸いです。



ストップ ザ ダイオキシン

パートナーシップコラム

日本列島を駆け巡ったダイオキシンショックは、私の住む御宿町にも押し寄せ、今もその渦中にある。500ng排出という不名誉な結果に、行政も住民もややパニック状態となった。夏のシーズンを目前にしてリゾート立町を目指す町にとってそれは大変な衝撃であった。

焼却炉の早急な修理は勿論のこと、ダイオキシン減量のため、まず市民と行政がとり組むべきことを具体的に実現せねばならない。「リサイクルグループかもめ」では、ゴミの分別・リサイクル・減量化への本格的対応を町行政に要請すると共に、市民・行政・販売業者から成る「環境対策会議」の設立を提案している。また「ゴミ・ダイオキシン」の学習会を開き、販売業者へ、包装・容器の改善申し入れなどの行動を起こした。

人類が作り出した猛毒ダイオキシンは、有機塩化化合物ジベンゾパラダイオキシン（TCDD）、多塩化ジベンゾフラン（PCDF）等の総称で、中でも2・3・7・8四塩化ジベンゾパラジオキシンは、サリンより毒性が強いと云われる。

大気、水、土壌、動植物から人間の健康にまで害をおよぼすこの物質が、ゴミ焼却と関連があると確認されたのは、1983年、都市ゴミの焼却炉からであった。

発生の原因は、主として不完全燃焼と炉の管理不足、さらに塩素をもつ石油系プラスチック類を含んだゴミを燃やすことである。焼却炉の数も世界一、ダイオキシン排出量もそれに比例して多く、放置すれば国際問題にもなりかねない。排出をストップする為、今こそ市民・行政・企業（製作、販売者）の完全で早急なパートナーシップを発揮するときと切実に思う。

リサイクルGかもめ　代表　永島　輝代

イベント案内

☆第1回「懇談会」へのお誘い

主　催　環境パートナーシップちば
日　時　平成9年8月31日(日)
　　13時30分～16時30分
場　所　千葉県教育会館203号室
テーマ　千葉県の環境概要等について
講　師　千葉県環境部
　　豊島　輝雄氏
参加費は無料

☆エコメッセちば1997

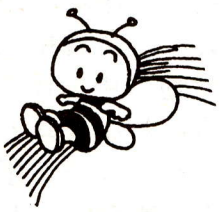
会　期　平成9年10月4日(土)
　　～10月19日(日)
会　場　千葉市幕張新都心地区
問い合わせ
　TEL043-224-2691
　FAX043-224-2522
「環境パートナーシップちば」では 環境なんでも相談コーナー を設けます。環境アドバイザー・環境カウンセラー有志が様々なご相談に応じます。

☆子ども環境会議

主　催
　(財)千葉県環境財団環境学習推進室
日　時　平成9年10月18日(土)
　　10時より
会　場　幕張新都心シャープビル
問い合わせ
　TEL0471-40-8604
　FAX0471-40-8601

☆環境シンポジウム1997千葉会議

会　期　平成9年10月18日(土)
会　場　幕張新都心シャープビル他
問い合わせ
　TEL043-224-2691
　FAX043-224-2522
環境パートナーシップちばも後援しています。
「環境パートナーシップちば」では全体会会場にて"環境マップ"と各団体の活動紹介パネルを展示します。どうぞご参加ください。
・サイズ　A3版
・製作費補助　1団体 3,000円
・締め切り　10月15日必着
・搬送先　(財)千葉県環境財団
　　環境学習推進室
問い合わせ
　TEL043-224-2691
　FAX043-224-2522



回　遊　魚

〈廃棄物ゼロの構想が地球を救う〉

21世紀の幕開けが近い今日、環境問題は最重要課題になっている。その中で持続可能な社会を構築するためには、エコロジカルな自覚の必要性とゼロ・エミッション（廃棄物ゼロ）構想が必要である。この構想は、国際連合大学が提唱している社会・経済構造を循環型システムに再構築する考え方で、ある産業の生産工場から出た廃棄物を処理して別の産業向けの有価物に転換し、これを原料として活用し、製品化して市場に出す。これがゼロ・エミッション構想の基本的な考え方である。

エコフレンド　荒井　進

編集後記

ここに創刊号が目出度く発刊できた事に対し、原稿をお寄せ頂いた皆様と、ご協力頂きました会員各位に対し、編集部員一同心からお礼と感謝を申し上げます。

『次号記事の予告募集』

①団体会員の活動状況を各号2団体程度（写真も）②各種シンポジウム及び研修会等に参加しての投稿記事とスクープ写真を募集します。

申し込み先　編集部　横須賀・小西まで

ただいま会員募集中！！

各種のイベント案内や会報等の無料配布の特典があります（FAXにてお申込みも結構です）

入会申込み書		年会費：個人1,000円　団体2,000円
会の趣旨に賛同し会費を添えて入会します		
氏　名		所属団体等
住　所		
電話番号		FAX
申込み先	TEL043-224-2691	FAX043-224-2522
会費納入先	郵便振替口座　00160－9－401872	環境パートナーシップちば

この「環境パートナーシップちば」だより は再生紙を使用しています。